第 3 報告：
スイスにおけるカトリック系企業家（1880～1914 年）

ピエール＝イヴ・ドンゼ

大阪大学教授

Ⅰ　はじめに

企業家精神に対する宗教の影響は古典的研究課題である（Ricketts, 2006）。特に，ヴェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』のインパクトが強く，カトリック系よりプロテスタント系が企業家精神があり，起業と経済発展に貢献するという見方が通説となった。1980 年代以降，フランス経営史・経済史の分野では宗教，企業家活動と社会的マイノリティに関する研究が盛んに行われた。研究者たちは，19 世紀～20 世紀前半においてアメリカとドイツの経済に比べてフランスが遅れていた理由の背景として，企業家精神と企業家活動について議論した。

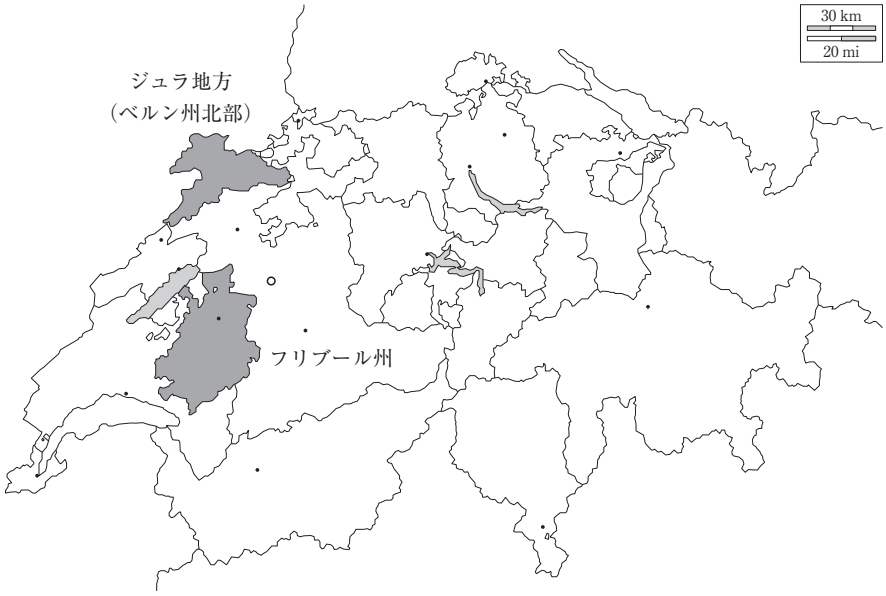
これら研究の出発点は，アメリカの経営史研究者による，19 世紀フランスの企業家精神の不足を重視する業績である。Landes（1949）は，フランスの企業家が企業の長期的発展ではなく，次世代の高度専門職（弁護士や医師，牧師など）へのキャリアおよび社会的な出世を目指したと主張した。それによれば，結果として企業は手段であり，目的ではない。また，Chandler（1990）もフランスの家族企業の国際競争力不足を述べた。これらの研究に刺激されたフランスの研究者は，多数の事例研究を通して，フランス国内の地域別の様々なモデルが共存することを明らかにした。例えば，繊維産業においてノルマンディーの企業家（カトリック系）が積極的に設備投資をせず，士業や不動産，政治活動を通して社会出世を目指したのに対して（Chaline, 1985），アルザスの企業家（プロテスタント系）は技術発展と投資によって長期的な企業成長を重視した（Hau, 1987）。しかし，北フランス（リール）の企業家はカトリック系であったにも関わらず，アルザスの企業家と同じような戦略を講じた（Daumas, 2004）。フランスにおいて，宗教と企業家精神・活動間の関係は微妙な問題であり，一般化できない。

なお，フランスではカトリック系人口が過半数であるので，「マイノリティ」として企業活動をしていたのはプロテスタント系とユダヤ系の企業家であった。したがって，カトリック系のマイノリティの企業家を考慮するために，本報告はスイスの事例を取り扱う。主なリサーチ・クエスチョンは次の通りである。

スイスのカトリック地域にはどのような企業家がいたのか？　彼らの企業のビジネス・モデルはいかなるものであったか？（Landes-Chaline モデルあるいは Hau-Daumas モデル）。

本稿では，フランス語圏のフリブール州とジュラ地方（ベルン州の北部）を中心に（図 1），二次史料と先行研究に基づいて企業家活動を紹介する。

図 1　スイスにおけるフリブール州とジュラ地方



（出所）　http://d-maps.com により著者作成。

Ⅱ　スイスにおけるカトリック系

まず，スイス連邦の中での「マイノリティ」としてのカトリック系を考えるには，その人口に関して議論することが必要であろう。1850 年から 1910 年にかけての人口構造の推移を見ると（表 1），全国人口に対してカトリック教徒の割合は 40～42% であり，確かにマイノリティとも言えるが，プロテスタント教徒が数的にスイス連邦を支配していたわけではなかった。

しかし，経済発展に関しては，プロテスタント教徒の影響力は圧倒的であり，これによって 19 世紀半ばから連邦の政治を支配する（Walter, 2016）。産業革命が興った地域が主としてプロテスタント系の州と都市部であったのに対して，カトリック系においてはアルプス一帯の地方であった。その結果，国際競争力があったスイスの大企業の多くはプロテスタント系の州に本社をおいた。表 2 は，1910 年におけるスイスの最大企業 110 社の本社所在地を宗教地域別に分けたものであり，スイスの経済におけるプロテスタント系の州の企業の支配が明らかになる。カトリック系の州にあるのは，3 社のみである。この 3 社を産業別に見ると，2 社は食品（フリブール州の Cailler とルツェルン州の Anglo-

表 1　スイスにおけるカトリック教徒人口

	カトリック教徒人口	全国人口に占める割合
1850 年	971,809 人	40.6%
1860 年	1,021,821 人	40.7%
1870 年	1,084,369 人	40.6%
1880 年	1,160,782 人	40.8%
1888 年	1,184,164 人	40.6%
1900 年	1,379,664 人	41.6%
1910 年	1,593,538 人	42.5%

（出所）　Historical Statistics of Switzerland Online, http://www.fsw.uzh.ch/histstat/main.php

表 2　1910 年におけるスイスの最大企業 110 社の本社所在地

	社数	比率
プロテスタント系の州	97 社	88.2%
カトリック系の州	3 社	2.7%
混合の州	10 社	9.1%
合計	110 社	100%

（出典）　Ginalski（2015）pp. 284-287 により著者作成。

Swiss Milk Chocolate)，1 社は綿紡績（ツーク州の Spinnerei Lorze）であり，いずれも 20 世紀初頭の最先端技術の産業ではない。また，宗教混合の州（ゾロトゥルン州，サンクトガーレン州，グラウビュンデン州）には 10 社があったが，所有者は主にプロテスタント系企業家であった。

カトリック系の州には大企業は殆どなかったにもかかわらず，工業化が行われなかったわけではない。そこでの経済発展は，中小企業によって伝統社会の秩序を崩さずに進められた。この過程は地方により異なったので，以下はフリブール州とジュラ地方の事例を紹介する。

Ⅲ　カトリック系地域の工業化

(1)　フリブール州

スイス連邦の 23 州の中で，フリブール州はカトリック系の影響力が最大の州であった。バイリンガル州として，ドイツ語圏とフランス語圏のカトリック系のコミュニティを代表し，工業化や国内市場の統合化，社会の近代化を促進していたプロテスタント系自由民衆党連邦政権に抵抗した。1881～1921 年には，カトリック系保守党はフリブール州の政治と社会を支配し，伝統社会を保護するために様々な政策を講じた。経済に関しては，農業を中心とした構造の変更を伴わない秩序を，第一次世界大戦まで維持した（Altermatt 1994）。

その結果，スイスは全国的に急速な経済成長を遂げたが，フリブール州は相対的に衰退した。同州の人口は 1880 年の 11.5 万人から 1920 年の 14.3 万人に増加したにもかかわらず，全国人口に占める割合は 4.1% から 3.7% に減少した（スイス連邦統計局 http://www.bfs.admin.ch/）。また，1910 年における産業別就業構造を見ると（表 3），農業は 48.8%，製造業は 27.5%，サービスは 23.7% であった（Annuaire statistique 1971, Fribourg: Office cantonal de statistique, 1971, p. 52）。それに対して，1905 年の全国の就業構造は，製造業が 45% であった。

また，フリブール州の製造業は主に農業と関連があった（木材，食品）。最大企業はチョコレート工場のカイエ（Cailler & Co.）であった。同社はフリブール州ではなく，隣のヴォー州に 1817 年にプロテスタント系企業家の Francois-Louis Cailler が創立した。このチョコレート工房は家族企業として継続し，創立者の孫 Alexandre-Francois-Louis Cailler（1866-1936）が同社を大企業に発展させた（Blanc, 1941）。社長に就任した 1887 年には，同社は従業員 8 人と機械 2 台しかもたなかった。チョコレート企業が発展するための主要な資源は当時，資本，労働者とミルクであった。資本調達は株式会社への組織変化（1900 年），そしてネスレからの資本参加（1911 年）によって可能となった。なお，フリブール州では低賃金労働者と豊富なミルクを獲得できたので，1897 年，カイエはそこに会社を移動した。同社の従業員は 1898 年の 120 人から 1913 年の 1,400 人に増加し，フリブール州の最大企業となった。1929 年にはネスレに買収された。なお，カイエは同州の工業化を支援しようと政治活動に参入し，自由民衆党の連邦議員（1911～35 年）及び州議員（1926～35 年）となった。

カイエのような州外のプロテスタント系企業家がいる一方，フリブール州における会社の設立・発展には他の事例も少なくない。同州の時計企業は 1 社のみであり，隣のヌーシャテル州（プロテスタント系）出身の時計職人 1 人とアルザス（フランス）出身の 1 人が 1852 年に始めた工房である。1876 年に，ヌーシャテル州の時計企業家 7 人が同社を買収し，スイス時計株式会社と改名されて大企業となった。1890 年

表 3　フリブール州における産業別就業構造の推移（1880～1920 年）　（単位：%）

	1880 年	1888 年	1900 年	1910 年	1920 年
農業	61.2	57	51.8	48.8	46.6
製造業	26.8	24.9	28.4	27.5	28.2
サービス	12	18.1	19.8	23.7	25.2

（出所）　Jean-Pierre Dorand, “Fribourg,” *Dictionnaire historique de la Suisse*, http://www.hls-dhs-dss.ch/textes/f/F7379.php

には，同社は600人の労働者を雇用し，スイスの全国トップテン時計企業の1つであった（Donzé 2007）。しかし，戦間期に同社は衰退し，1962年に操業を停止した（Fallet & Trisconi, 1991）。

また，1877年にフリブール市に設立されたカルディナル麦酒（Brasserie Cardinal）は，ベルン州ジュラ地方南部のプロテスタント系の醸造家1人と新しい事業に投資しようとしていた時計メーカー1人とが設立した会社であった。同社は急速な成長を遂げ，ビール販売量は1880年の3千ヘクトリットル（全国生産量の0.3%）から1908年の77.6千ヘクトリットル（3%）に増加し，スイスにおける大手麦酒製造業者となった（De Weck, 1986）。なお，1907年にカルディナルは株式会社となり，2010年にカールスバーグ・グループに買収されるまで麦酒製造業を継続した。

以上の各事例を通して，フリブール州の工業化は州の外部の企業家によって行われたことが明らかになった。

そこで次に，地元のエリートが工業に投資しなかった理由に関して議論することが必要である。17世紀から18世紀末まで，フリブール市の貴族はフリブール州を政治的・経済的に支配しており，傭兵およびチーズ輸出によって商業資本を集めた（Steinauer, 2018）。しかし，20世紀初頭までフリブール州を支配していた彼ら貴族は工業企業に投資せず，法律家などの専門職および官僚としてのキャリアを目指していた。そして伝統社会の秩序の維持を重視していたこれらのエリートは，都市化，民衆運動，争議に至る可能性をもつ工業化に抵抗した。

(2) ジュラ地方（ベルン州の北部）

カトリック系ジュラ地方（以下，ジュラ地方を省略）は，フリブール州と異なり，工業化が進んだカトリックの田園地方であった[1)]。表4によると，同地方の製造業の比率は1880年に既に43%であり，農業より大きい部門であった。また，製造業の割合は1900年に50.6%とピークに達し，その後やや減少したが依然として40%以上であった。

表4　ジュラ地方における産業別就業構造の推移

（単位：%）

	1880年	1888年	1900年	1910年	1920年
農業	35.6	36.5	31.3	33.2	35.9
製造業	43	45.3	50.6	44.6	43.8
サービス	21.4	18.2	18.1	22.2	20.3

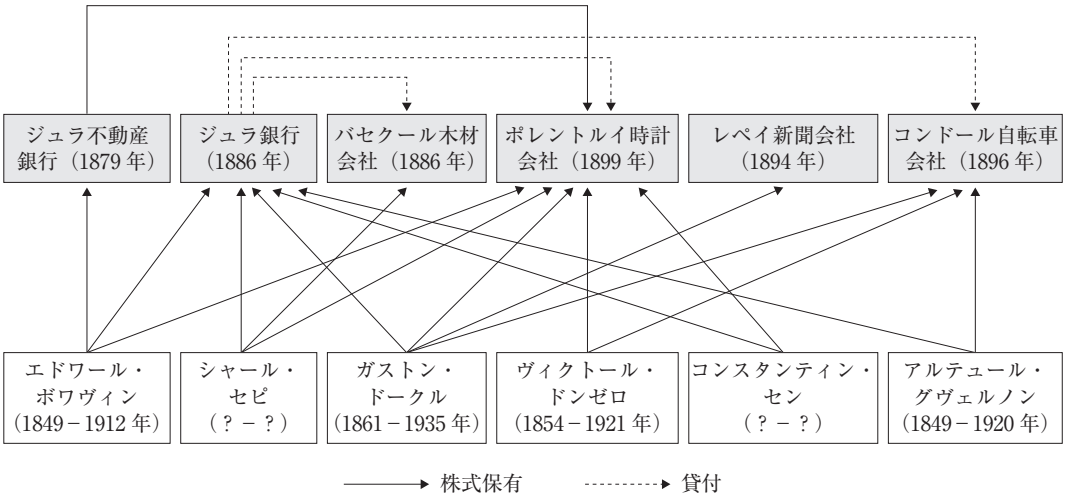
（出所）*Annuaire des statistiques jurassiennes*, 1984, p. 141.

製造業の高水準の要因は，ジュラ地方がスイス北西部に集中していた時計産業集積の中心であったことである[2)]。すなわち，19世紀前半から時計製造が始まり，プロト工業化の古典的なモデルとして発展した（Donzé, 2011）。同地方の工業化はこの産業集積に基づいて第一次世界大戦まで発展したが，農民の内職や，工房，中小企業が多く，大企業は成立しなかった。また，工業化があっても，人口の成長は限られ，1880年の5.2万人から1920年の5.9万人に増加したが，全国人口に対する割合は1.8%から1.5%に減少した（スイス連邦統計局 http://www.bfs.admin.ch/）。

なお，フリブール州と同じく，1890年代からジュラ地方外の企業家は，同地方で自由民衆党を支援していた近代的エリートと共に様々な企業を設立した。地方外の人は経済活動と同時に地方の政治に積極的に参加していた（ベルン州議員，市議員など）。彼らが設立した主な企業はデレモン麦酒会社（1886年），ヘルグ時計ケース会社（1888年），ウェンゲール・ナイフ会社（1893年），ゲルベール葉巻（1901年），ジュラ家具会社（1903年）であった（Kohler, 1985）。器械産業における熟練労働者の存在および低賃金はジュラ地方の主要な資源であった。

またジュラ地方の伝統的エリートは，フリブール州と同じくカトリック系保守党を支援していたにもかかわらず，1880年代に既に発展していた工業化に抵抗することは不可能であったため，これに参入し，多数の中小企業を設立した。彼らの企業は一連の同族によって設立され

図 2　ジュラ地方におけるカトリック系企業・企業家のネットワーク



（注）　年号は，企業は設立年，企業家は生没年。
（出典）　Cortat（1999）。

たことが特徴である（Cortat, 1998）。この点では「家族企業」と言えるが，欧米の先行研究で一般的に想定されているものとは異なり，1家族が1社を所有したわけではない（Colli, 2003）。ジュラ地方のカトリック系企業は5〜6家族が共同で投資し，経営していた。また，これらの家族間には，族内婚を通してネットワークが結ばれた。なお，これらの企業家は政治活動に積極的に参加し，多くの保守党のベルン州議員とスイス連邦議員がいた。

図2は，このネットワークに関わりをもつコア企業とコア企業家を表す。これらの6社は1879年から1899年にかけて設立された株式会社であり，それぞれの資本はコア企業家6人からの参加を含む。産業別で見ると，銀行2行は他社に投資や貸付をおこなうことで，それら企業に地域の経済発展における主要な役割を与えた。また，ジュラ地方における木材と軽器械（時計および自転車）産業という主要産業のリーディング中小企業となったものがみられる。また，このネットワークのコアメンバーは，結婚戦略を通して他の企業家と繋がりを構築した。例えば，ヴィクトール・ドンゼロには子が14人おり，うち娘2人は時計企業を所有していたルイとシャール・テリヤの兄弟，他の娘は他の時計企業の主（ジョセフ・ジョービン）と結婚した（Cortat, 1999）。このような家族ネットワークがジュラ地方の工業企業を支配していた。

なお，ジュラ地方の保守党の機関紙を印刷するために，同党首の弟（ガストン・ドークル）が新聞社を設立した。政治活動は地方の工業化とともにこのコア企業家の目的であった。例えば，コアメンバー6人のうち2人（ボワヴィンとグヴェルノン）はベルン州議員であり，1人（ガストン・ドークル）はジュラ地方の保守党長（エルネスト・ドークル，ベルン州議員，スイス連邦衆議員）の妹である。

このカトリック系エリートの経済活動と政治活動は1つの目的を持ち，既に工業化が始まっていたジュラ地方では，伝統社会の秩序（自治体の権限や，教育・社会政策に対する教会の影響持続など）が壊されないことが重視された。彼らのイデオロギーはフリブール州のカトリック系エリートと同じであったが，地元の経済状態は異なったので，ここでは工業化に積極的に参入したのである。

Ⅳ まとめ

本報告は，フリブール州とジュラ地方における企業家の活動を通して，マイノリティとしてスイスのカトリック系企業家に再考を加えた。それぞれの事例には，異なる企業家精神のケースが示されている。まずフリブール州の場合には，工業企業を設立した主体は地元のエリートないし職人ではなく，域外からのプロテスタント系企業家である。これは域内で企業家精神が不足していたケースであると言え，先行研究が明らかにしたフランスにおけるカトリック系企業家と近いものである。しかし，ジュラ地方に関しては，地元のエリートと職人は積極的に工業化に参入し，様々な企業に融資した。彼らは，投資活動，政治活動と族内婚を通してネットワークを作り，伝統社会を支配し続けた。この家族ネットワークの企業は家族企業論においてまだあまり議論されておらず，これからの新しい研究の対象であろう（Colli, 2003）。

注

1) ジュラ地方（フランス語圏）は 1815 年にベルン州（ドイツ語圏）に編入され，南部はプロテスタント系，北部はカトリック系である。1979 年に北部はジュラ州となった（Reuter, 2016）。
2) ジュラ地方以外の時計産業集積はプロテスタント系である（Donzé, 2011）。

参考文献

Altermatt, Urs（1994）*Le catholicisme au défi de la modernité: l'histoire sociale des catholiques suisses aux XIXe et XXe siècles*, Lausanne: Payot.

Blanc, Louis（1941）*Alexandre Cailler, sa vie, son œuvre,* Fribourg: Fribmiis.

Chaline, Jean-Pierre（1982）*Les bourgeois de Rouen: une élite urbaine au XIXe siècle*, Paris: FNSP.

Colli, Andrea（2003）*The History of Family Business, 1850-2000*, Cambridge: Cambridge University Press.

Cortat, Alain（1998）*Condor: cycles, motorcycles et construction mécanique: 1890-1980: innovation, diversification et profits*, Neuchâtel: Alphil.

Cortat, Alain（1999）"Banque, horlogerie et mécanique: les réseaux industriels conservateurs jurassiens（1880-1930）," *Actes de la Société jurassienne d'émulation*, pp. 342-351.

Daumas, Jean-Claude（2004）*Les territoires de la laine: histoire de l'industrie lainière en France au XIXe siècle*, Villeneuve d'Ascq: Presses Univ. Septentrion.

De Weck, Hélène-Alix（1986）*La Brasserie du Cardinal de 1877 à 1907*, Fribourg: Institut d'histoire moderne et contemporaine.

Donzé, Pierre-Yves（2007）*Les patrons horlogers de La Chaux-de-Fonds: dynamique sociale d'une élite industrielle（1840-1920）*, Neuchâtel: Alphil.

Donzé, Pierre-Yves（2011）*History of the Swiss watch industry: from Jacques David to Nicolas Hayek*. Berne: Peter Lang.

Fallet, Estelle & Michela Trisconi（1991）"L'horlogerie dans le canton de Fribourg," in Catherine Cardinal, François Jequier, Jean-Marc Barrelet and André Beyner（eds.）, *L'homme et le temps en Suisse, 1291-1991*, La Chaux-de-Fonds: IHT, pp. 120-121.

Ginalski, Stéphanie（2015）*Du capitalisme familial au capitalisme financier? Le cas de l'industrie suisse des machines, de l'électrotechnique et de la métallurgie au XXe siècle*, Neuchâtel: Alphil.

Hau, Michel（2010）"Entrepreneurship in France," in William Baumol（ed.）, *The Invention of Enterprise: Entrepreneurship from Ancient Mesopotamia to Modern Times*, Princeton: Princeton University Press, pp. 305-330.

Kohler, François（1985）"Les débuts de la Fabrique jurassienne de meubles à Delémont（1903-1908）," *Les intérêts de nos régions*, 7, pp. 128-164.

Landes, David（1949）"French Entrepreneurship and Industrial Growth in the Nineteenth Century," *The Journal of Economic History*, 9/1 pp. 45-61.

Reuter, Tina Kempin（2016）"The Right to Self-Determination of Ethnic Groups: The Canton of Jura in Switzerland," *International Journal on Minority and Group Rights,* 23/2, pp. 250-269.

Ricketts, Martin（2006）"Theories of Entrepreneurship: Historical Development and Critical Assessment," in Anuradha Basu, Mark Casson, Nigel Wadeson & Bernard Yeung ed., *The Oxford Handbook of Entrepreneurship*, Oxford: Oxford University Press, pp. 33-58.

Steinauer, Jean（2018）*Patriciens, fromagers, mercenaires: Histoire de l'émigration fribourgeoise,*

XVIIe-XVIIIe siècle, Neuchâtel: Alphil.
Walter, François (2016) *Histoire de la Suisse*, Neuchâtel Editions Alphil.
Weber, Max (1904–1905) "Die protestantische Ethik und der Geist des Kapitalismus," *Archiv für Sozialwissenschaften und Sozialpolitik*, 20–21.

Abstract

Catholic Entrepreneurs in Switzerland (1880–1914)

by Pierre-Yves Donzé

This paper focused on catholic entrepreneurs in Switzerland between 1880 and 1914. During this period of second industrialization, Swiss economy and politics were dominated by protestant elite that engaged in the modernization of the country, while the catholic minority tried to resist social change and to maintain a traditional order. The two cases of canton of Fribourg and of Jura (Northern part of canton of Berne) show however a very distinct attitude of catholic elites towards industrialization. In Fribourg, local elite did not support the creation of modern enterprises and engaged rather in liberal professions. All the major enterprises founded in this canton belonged to entrepreneurs from outside of the canton, mostly protestant. As for Jura, it experienced the creation of numerous small and medium sized enterprises by local catholic elites. They invested collectively in a network of firms, particularly with the objective to maintain social order and their domination on local society.